

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570207639		
法人名	医療法人 仙知会		
事業所名	グループホームまつ風 第一ユニット		
所在地	能代市浜通町4-52		
自己評価作成日	令和3年11月21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和3年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者がいつでも安全で安心できる施設である。コロナ禍で外部の祭りなどが中止になって、参加機会が少なくなったが、内部でカラオケ大会や、運動会などレクリエーション活動を活発に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3階建てのホームからの眺めは格別で、能代港に停泊する船舶、米代川河川敷、白神山地が眺望できる。15,000発もの「港祭り能代の花火」がまるで貸し切り席のように鑑賞できる立地にある。今年は河口に何度も大きな虹がかかり、感激したとのこと。灯籠を頭にのせた子供達を先頭に、太鼓、笛の音色と共にホーム玄関前に訪れる伝統行事「子供七夕」も満喫できる。各ユニット毎に年度目標をスタッフ間で意見を出し合い作成しており、ユニット毎それぞれの特徴が反映された内容である。スタッフの得意分野を生かした人形劇や、スイカ割、カラオケ大会、敬老会等々の行事が豊富である。秋の大運動会では、選手宣誓、パン食い競争、借り物競争、輪投げ、玉入れで毎年大盛り上がりとのこと。スタッフ間のコミュニケーションがスムーズで、意見や提案を気軽に出来る職場である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	担当者会議やカンファレンスにおいて、理念を確認し介護計画立案時にそれに沿うようにしている。また、各ユニット毎に目標を立てて実践している。	以前の理念は、スタッフが覚えきれないとのことで、1～2年前に法人内の他のグループホームの理念を採用することで、法人内の全てのグループホーム共通の理念とした。「住み慣れた」「笑顔あふれる」「ゆっくり」「その人らしく」がキーワードのグループホームらしい、わかりやすく覚えやすい理念である。以前の理念は「遵守すべき心得」と名を変え、理念・心得共にホーム内の見やすい位置に掲示されている。4年前より、各ユニット毎に年度目標をスタッフ間で意見を出し合い作成しており、各ユニットの入口近くに掲示されている。ユニット毎にそれぞれ特徴のある目標である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市広報の回覧で情報を共有したり、コロナ禍で地域の行事(祭りや七夕)が中止になっているが、オリンピックの聖火ランナーの見学などコロナ感染に気をつけながら、地域との交流も行い、利用者、職員が一緒に楽しんでいる。	8月2日夕刻、田楽と呼ばれる灯籠を頭にのせた子供達を先頭に、アニメキャラクターなどをかたどった灯籠が太鼓、笛の音色と共に訪れ、ホーム玄関前で伝統行事「子供七夕」を満喫できる。3階立てのため、15,000発もの「港祭り能代の花火」がまるで貸し切り席のように鑑賞できる立地にある。隣接する電設工業に、災害時等の協力要請をしており、AED(自動体外式除細動器)の利用も承諾してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	福祉実習やボランティア実習などの受入等を実施しているが、最近は少ない。また、専門職としての知識を地域の人々に伝え、貢献する機会が少ない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で得た情報等を議事録として作成し、それを回覧して、サービスの向上に生かせるよう努めている。	家族代表、自治会代表、民生委員、市役所介護保険課担当の参加する運営推進会議が2か月毎に開催されている。コロナ禍による書面開催時には、参加者の自宅を訪問し、資料を配布している。議事録は全スタッフに回覧され、周知されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、常に連携を取れるようにしており、運営推進会議の委員としても参加をお願いし様々な情報や提言をして頂いている。	市介護保険課担当者が運営推進会議に毎回参加している。市の担当窓口には常日頃より気軽に相談でき、申請書類や家族対応について助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等は、職員会議などで定期的に事例検討会を行い、また、身体拘束廃止検討会議を3か月に1回開催して議論している。さらに、職員研修を年2回行っている。基本的には行わないことで意識統一している。必要があれば家族の同意を得た上で、対応している。施錠については、入居者の状況により、安全確保のために行う場合がある。	転倒や転落による危険性の極めて高い方が数名おり、前回の外部評価結果を踏まえ、わずかな時間でも拘束が解除される時間を見つけ出すよう取り組んでいる。詳細な身体拘束等の適正化のための指針が整備され、適正化委員会が3か月毎に開催され、内容が全スタッフに周知されている。年2回、身体拘束防止に向けた研修を実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関するパンフレット、研修資料を回覧などして、職員全体の意識の共有化が図られている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	関係資料を回覧することにより、職員全体に周知するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時において十分に説明し、ご理解を得ている。改定等の際には、ご理解を得た上で承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設内に投書箱を設置しているほか、個々の要望等についてもできる限り反映させるよう努めている。	最近入居された遠方の家族から、電話の頻度についての問い合わせがあり、本人が安心できるよう要望に答えたとのこと。コロナ禍のため、玄関に透明な飛沫防止カーテンが設置され、対面で面会できる配慮がなされていた。窓越しに互いに携帯電話等での面会が出来るようにする等工夫している。スタッフが持ち回りで作成し、毎月発行されるユニット毎のまつ風通信には、盛りだくさんの行事での利用者の表情が満載。「親身に世話してくれる。よく観察し、電話で丁寧に報告してくれる。本人の笑顔が見られるようになった。手厚いケアに感謝します。」と家族からも好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員との情報交換の場の設置及び定期、随時に本部との連携を密にして意見や要望などを反映してもらうようにしている。	他のホームのような遅出(遅番)はなく、日勤と夜勤の2交代制であり、調理専任のスタッフを配置する等、働きやすい体制を目指している。スタッフの得意分野を生かしたレクリエーションが実施されており、スタッフ間のコミュニケーションがスムーズなお陰で、スタッフの個性が発揮でき、意見や提案も気軽に出来る職場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力などを定期的に本部に報告するようしており、待遇の改善などを促すようにしている。職員からの職場環境の改善提案などに対し、対応するようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や個々の現状の力量等に応じた研修を受講してもらうように通年に亘り実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他グループホームと情報交換している。他法人の介護保険施設と、当ホームでの生活が困難になった利用者の受け入れ先として相談し、連携を図っていることなどで交流がある。また、介護保険制度改正などについて、同業他事業所との確認作業など協力頂いている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前の実態調査時に、本人、家族、担当ケアマネジャーから予め希望や意見等、情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記に同じ。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者として、利用者の喜怒哀楽に共感し、理解しようとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に連絡の取れる状況を確保している。また、「まつ風通信」を発行し、日頃の生活状況のひとコマを写真にしてお伝えしたりしている。また、次月の行事予定など情報交換のお伝え手段としている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染が蔓延している時以外は、家族との窓ガラス越しの面会や、必要に応じ電話での連絡も取れるようにしている。必要に応じ外出の支援も行っている。	河川公園散歩時に知り合いから声をかけられたり、ホーム裏のコンビニの店員と話をしたり、オリンピック聖火ランナーに地域の方と共に声援を送ったり、地域の人達との交流が自然と行われている。自宅の仏壇に手を合わせたいという本人の意向を汲み、送迎が出来ない家族に代わってスタッフが送迎したこともあった。医療機関受診の際に、買い物をしてきたり、希望でお寺に同行したり、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。夫の命日にお墓に同行した事例も確認できた。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室の位置や、食事の席など利用者が仲良く関わり合えるように配慮している。軽作業やレクリエーションを通じて、交流を持てるよう配慮している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に他施設のケアマネ等に引き継ぎ、情報の伝達を適切に行い、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時、及びケアプラン作成時に家族、本人の意向を確認しながら対応している。	夜勤時は、利用者と1対1で話せる貴重な機会とのこと。手芸の得意な利用者が作成した鮭や御殿まり、椿の花のみごとな手芸作品に驚かされる。数名の家族から、家族の思いを記入したメモがホームに届いており、スタッフの励みになっている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前の実態調査時に生活歴等について家族から情報を得て、入所後も情報交換しながら介護サービスに反映させている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の心身の状況などを記録し、チームとして連携しながら、一人ひとりの状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎に本人、家族の意見等を反映させながらスタッフと協議し、ケアプランの見直しを行っている。	入居時はおかずをほとんど食べなかった利用者に関しては、スタッフ間で観察検討し、声掛けを工夫することで改善されたとのこと。本人の思いを把握することの難しさを痛感しながらも、日々の会話や観察を重ね、よりよい支援に向けケアプランに反映させるよう取り組んでいる。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケース記録、業務日誌、健康チェック表等により、介護計画に反映させている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	周辺の医療機関、学校、自治会、消防等との連携を密にしながら、緊急時の医療ケア、万一の災害の際の援助協力をお願いしている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者及び家族のご意向を確認した上で対応している。(入所契約時に確認している。)途中、ご家族の希望があれば変更に応じている。	訪問看護ステーションとの連携や、2医療機関による訪問診療の他、歯科や眼科も訪問してくれている。かかりつけ薬局が配達してくれ、一包化や名前入れ等々、気軽に相談できる関係にある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、連携する訪問看護ステーションの看護師が各階を回り入居者の状態をチェックしている。状態の変化があれば、その都度報告、指示を仰ぎ対応している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族に対応頂き、ご家族より状態の情報を得ている。退院許可が下りた場合には、実態調査を行い、直接担当の看護師より情報を得て進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	白坂医院、わたなべ医院の患者様である場合は医師・訪問看護師・ご家族・まつ風で話し合う。その他の病院はその病院の対応に合わせて連絡を取り、進めていく。	「重度化した場合の対応・看取りに関する指針」が整備され、入居時に指針に基づき家族に説明し同意を得ている。看取りは基本的には実施しない方針であるが、個々のその時の事情により、過去に4～5件の看取りの経験を有する。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あわてず、確実かつ適切に応急処置や初期対応が取れるように努めている。緊急時の連絡網もあり、緊急時に対応できるようにしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、春と秋に避難訓練を実施している。5月、11月には、火災避難訓練を実施し、6月には水害を想定した訓練を行っている。	火災の際は直ぐに駆け付けられる距離に、消防署の分署があり、協力体制が築かれている。過去に近くを流れる米代川が氾濫し、避難した経緯がある。ハザードマップ上、2階まで浸水する可能性があるとのことだが、当時は3階まで避難したとのこと。地区住民は能代公園が避難場所であるが、車椅子で公園を上ることは難しい現状にある。	災害時を想定し、避難訓練への住民の参加協力について、運営推進会議の議題に取り上げるよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定したりせず、また羞恥心に配慮した介助や声がけをしている。	5項目に及ぶ「遵守すべき心得」に、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応についての記載が確認され、支援現場でも利用者への言葉かけや対応に、職員のさりげない配慮が感じられた。風呂場の入口の廊下の天井に設置されたロールカーテンは、プライバシーに配慮し、入浴時に使用している。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で十分に意思表示できない場合でも、表情や全身の反応を注意深く観察して、本人の希望や好みを把握するように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日々の状況、性格等に合わせて対応しており、極力希望に添えるよう支援している。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人やご家族の希望等に応じ身だしなみやおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、季節や行事に合ったメニューをお楽しみメニューとして提供している。会話しながら食事をしたり、利用者によっては、配膳、下膳等の作業を手伝ってもらっている。	お楽しみメニューを、毎月利用者に予告なく実施し、驚きや楽しみを取り入れている。誕生会にはスタッフ手作りのケーキに家族からのプレゼントを渡すようにしている。各ユニットで、炊飯と盛り付けを行い、1階にて調理専任の3名が本部の栄養士が作成した献立に基づき調理している。八森や藤里、大太鼓の里等へ出かけ、道の駅で外食を楽しんでいる。大好きなだまこ鍋は、利用者と共に手作り。まだ日は浅いが、栄養士が調理を担当しており、今後の栄養士としての活躍が期待される。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量等については、毎日記録し、利用者の状況に異常がないか注意しながら支援している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や有する力を活かしながら、不十分な場合は職員が支援して口腔ケアを行っている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄チェック表を作成し、状況を把握しながら、可能な限りトイレで排泄できるように支援している。	排泄チェック表は、1日24時間分をユニット毎にチェックできる様式、更に個別の月毎のデータとして、蓄積されている。一人ひとりの排泄のパターンを詳細に把握することで、排泄の自立にむけた支援に取り組んでいることが、各事例から確認できた。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の食事や、排泄、活動状況の見直しをし、自然排便を促すように工夫している。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の健康状態、職員の都合など総合的に考慮して週に2回は実施している。	午前を入浴の時間に当てており、一人当たり週に2回は入浴できるよう支援している。曜日を固定するのは実情では困難とのこと。浴槽が比較的深く怖がる利用者もいるので、踏み台や手すり等による改善を都度工夫し対応している。2人で入浴する場合は、仲の良い方と入れるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調や精神状態に合わせて支援している。ソファなどでお昼寝など出来るように配慮している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての処方箋を保管しており、常に服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を畳んだり、新聞紙の整理をしたり自分の役割を持つようにしている。ジグソーパズルを楽しんだり、歌謡曲のDVDを視聴したりして、自分の楽しみごとが出来るように支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	集団生活の中なので、個々の希望には添えないこともあるが、できるだけ散歩やドライブ等により、外出の機会を設定している。また、ご家族の協力により、外出の支援をしている。	ホーム向かいの緑を満喫できる広大な河川公園は、絶好の散歩コース。種苗交換会の会場となり、利用者とは出かけ交換会を楽しんだとのこと。公用車を手配し、能代公園のつじ、能代エナジウムパーク、能代市役所さくら庭等々へ出かけている。2階と3階にはベランダがあり、日光浴を楽しめる。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の性格上、原則的には、利用者の現金所持は行っていない。施設で預り金として管理しており、必要に応じて対応している。使途等については、毎月書類で確認いただいている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者、家族の希望に応じて対応している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節行事がある時には、その季節にあった飾りなどを行って工夫している。常に、温度、湿度、部屋の明るさには気をつけている。	3階建てのホーム、特に2階と3階からの眺めは格別で、能代港に停泊する船舶、米代川河川敷、白神山地が眺望できる。今年は河口に何度も大きな虹がかかり、感激したとのこと。ホーム全室が洋間であることから、ホールに畳のスペースを設けたが、畳の段差が危険であり、撤去した経緯がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じ、テーブルの配置を考えて、気のあった人同士が座れるようにしたり、一人で過ごせるようにしたり常に工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族とも相談しながら、愛用していた物などを置いたりしている。	ベッド、タンス、温風ヒーターが備え付け、白をベースとした明るい部屋である。テレビや位牌を持ち込んだり、お孫さんや家族の写真が壁に飾られていたりした。備え付けのベッドの高さを個々の使いやすさに合わせ、高さを調整し対応した事例を確認できた。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を大きく見やすくしたり、個々のお部屋に大きな字で名前を表示したりしている。転倒の危険がある利用者の居室には手摺を設けて転倒の防止に努めている。		